2才児の森のようちえん「トコトコくらぶ」15期
2024年度説明会資料

NPO法人子育て応援かざぐるま（担当山田）
札幌市中央区大通西27丁目1-1 円山バスターミナル2F
090-3117-2294／011-676-3387
kazaguruma@oasis.ocn.ne.jp

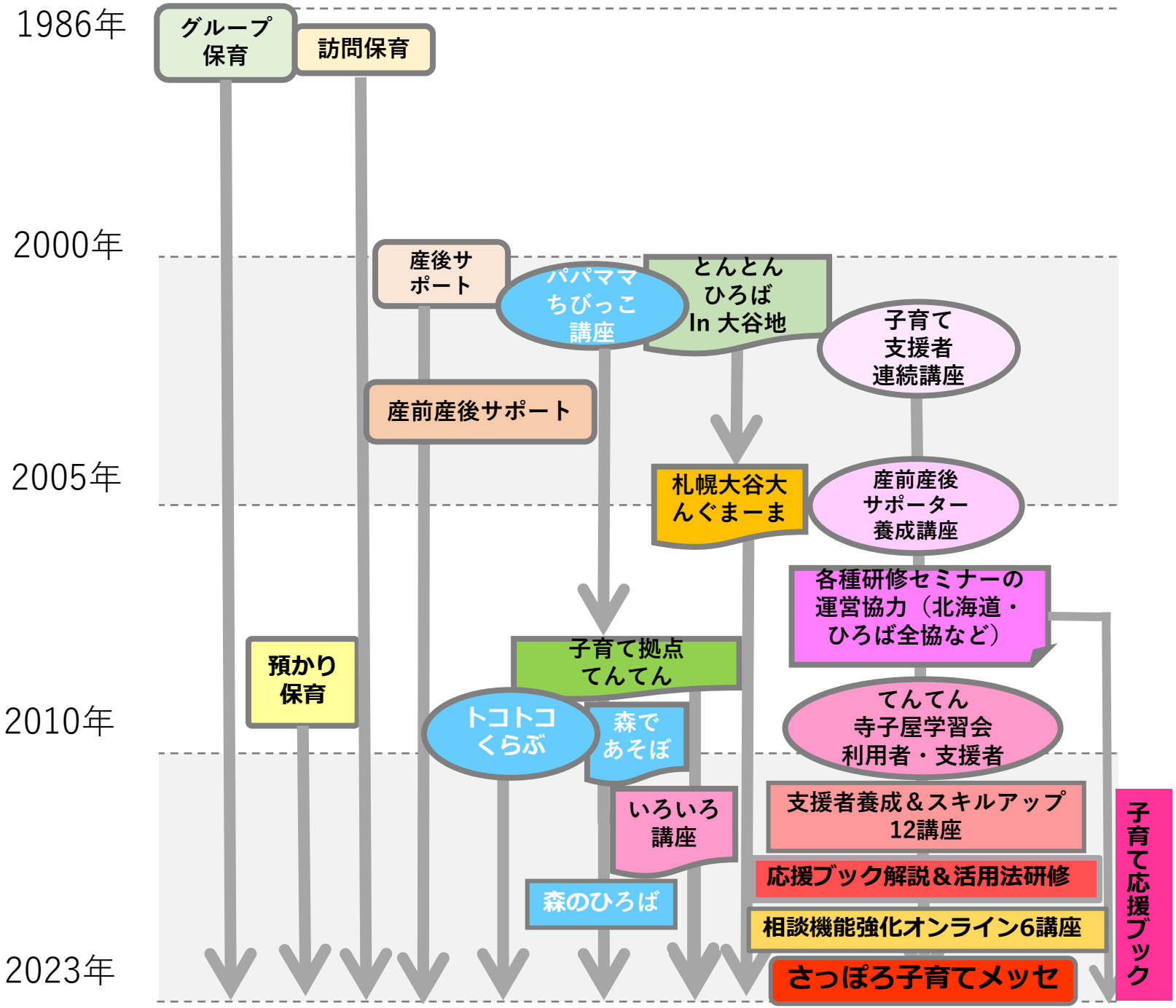
2歳児の森のようちえん
「トコトコくらぶ」

- 雨の日も風の日も雪の日も円山原生林で遊ぶ
- 2歳児のブラブラ期をおとなも一緒に楽しむ！
- 12組の親子が1つの大家族のように♪

設立37周年「かざぐるま」活動の変遷

地域社会や利用者のニーズを事業化

この法人は、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を育む全ての人々が必要とする情報やサービスの提供、子育て支援のネットワーク推進に関わる事業を行い、全ての子どもが安心して心豊かに育つことが保障される地域社会の実現に寄与することを目的とする。



かざぐるまの活動～地域の課題解決に向けて事業化

① 集会の会場や利用者宅などでの保育や子育て支援事業	**訪問して行う**	訪問保育	産前産後サポート	グループ保育
	子育て拠点てんてんで行う	預かり保育（一時保育）	**2才児の森のようちえん トコトコくらぶ**	
② 子育て中の親子や様々な人が交流するつどいの広場事業		**子育て拠点てんてん**（札幌市地域子育て支援拠点ひろば型指定）	札幌大谷大学短期大学部子育て支援センター「んぐまーま」運営協力	
③ 子どもが育つ環境や文化の調査研究及び推進・啓発事業		子育て応援ブック研修「乳幼児のこころとからだの育ちを支える知識と技能の基本を学ぶ」	てんてん寺子屋学習会～子どもの発達と子育ての悩みを語り合う（保護者向け）4回	
④ 子育て支援に関わる研修事業およびネットワーク推進事業		自治体や他団体との連携 ＊道主催研修企画から協力	さっぽろ子育てメッセ2023	講師派遣 出前講座
⑤ 子育ち・子育てに関わる情報収集と提供及び相談事業		HP・Facebook LINE公式アカウント 子育て通信発行	プレママ＆プレパパや赤ちゃんを育てる親子のための子育て応援ブック	子育て応援動画107本

2021年11月
「よみうり子育て応援団大賞」受賞

よみうり子育て応援団大賞、札幌市のＮＰＯ法人など表彰

2021/11/15 23:23

この記事をスクラップする

優れた子育て支援活動を顕彰する「第１５回よみうり子育て応援団大賞」（読売新聞社主催）の表彰式が１４日、大阪市北区で開かれた。

３５年にわたり訪問保育や子育て広場の運営などを展開する「ＮＰＯ法人子育て応援かざぐるま」（札幌市）の山田智子代表理事（６１）に、賞状と賞金２００万円の目録が手渡された。奨励賞の「一般社団法人こどもとおとなのあそびとたいわ」（埼玉県上尾市）と「ＮＰＯ法人子どもセンターぬっく」（大阪市）に賞金１００万円、選考委員特別賞の「ＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン」（東京都千代田区）には同２０万円の目録が贈られた。

あわせて読みたい

- 子豚３頭が豚コレラ感染、１万１９００頭を殺処分へ…移

年(令和3年)10月28日(木曜日)

第15回よみうり子育て応援団大賞

第15回「よみうり子育て応援団大賞」には、136団体の応募があった。大賞のＮＰＯ法人子育て応援かざぐるま（札幌市）には賞金200万円を贈り、同団体主催のイベントに講師を派遣する。奨励賞２団体の賞金は各100万円で、選考委員の大日向雅美、山縣文治両氏が活動について助言する。選考委員特別賞（賞金20万円）を含めた受賞４団体を紹介する。

親子に寄り添い35年

大賞 NPO法人 子育て応援かざぐるま（札幌市）

「トコトコくらぶ」で元気よく走る子どもたち（札幌市中央区で）＝佐々木紀明撮影

「リスがいた！」。札幌市中央区の円山原始林に、子どもたちの声が響く。10月初旬、2、3歳児11人が森を抜け、約1㌔先の動物園を目指した。段差をよじ登り、坂道を駆け降りる。

幼稚園入園前の子どもを対象に毎週、開く「トコトコくらぶ」は、四季折々の自然とのふれあいを通じて、自立心や社会性など生きる力を育てようと2001年から始まった。代表理事の山田智子さん(61)は「半年前は森の斜面に立つことさえ難しかった子も体幹が鍛えられ、走り回っています」とほほ笑む。

自然を生かした取り組みのほか、子育て広場の運営や産前産後の家族サポートなど、スタッフ21人で様々な親子支援を展開する「かざぐるま」は今年、設立35年を迎えた。時代や地域のニーズに合わせ、役割を拡大させながらの歩みでもあった。

当初の活動は、女性の社会参加を後押ししようと、子どもの一時保育や訪問保育が中心だった。1980年代後半になると、核家族化などから相談相手もなく、子育ての不安や悩みを打ち明ける母親が自立つようになった。元幼稚園教諭の山田さんは「子どもへの接し方は助言できても、つらさを抱える母親に、どう向き合えばいいのかわからなかった」と振り返る。

親支援について専門家の話を聞いたり、勉強会に参加したりして学ぶ過程で、親子が気軽に集える広場の重要性を知った。札幌大谷大短期大学部との広場運営などで経験を積み、2009年に「子育て拠点てんてん」を円山公園近くに開設した。

周辺には転勤族が多く、利用する母親は「実家のような安心感がある」と言う。スタッフにはかつての利用者もおり、埼玉県出身の山本愛梨さん(37)は「雪の中での遊ばせ方もここで教えてもらった。少しでも恩返しができれば」と語る。

近年は団体の枠を超え、支援者の育成にも力を入れる。各地の広場や自治体の育児教室などが中止となったコロナ禍では、子育てのノウハウをまとめた100本以上の動画や冊子を作成し、活用を呼びかけた。

「現場で親子の声を聞き、何か支援できるのではないかと動き続けてきた。もっと協力者を増やしていきたい」。山田さんたちの願いは、北の大地に根付いた支援の輪を、さらに広げていくことだ。

なぜ、トコトコくらぶを始めたのか？

- 1990年代後半～2000年代

訪問保育等を通して公園から子どもの姿が消え、子どもの自然のかかわりが減少していると実感

- 2009年

自立歩行を完了した子どもたちの経験をさらに広げてやりたいと、保護者は習い事や早期教育を選択

（特に家庭で育つ）子どもたちが、アスファルトとコンクリートの上のみで育っていることに危惧を抱く

- 子どもを「自然」に返したい！
- 子どもが子どもとして豊かに育つ「時間」を保障したい！
- 「2歳児の探索行動」を安心安全な場所で十分に行わせてあげたい

◎私たちにできることは何か？

トコトコくらぶの特徴

- 円山の麓の原生林の四季折々の自然を活用
- 子どもの経験保障＆発達保障を意識
- 雨の日は雨の日ならではの遊びを楽しむ
- 道具を使わず身体ごと遊ぶ
- 合言葉は、12組の親子が1つの大家族のように♪
- 様々な関係性を支援
- 毎回の終了後には振返り＆記録を行い、日々のそれぞれの子どものエピソードを拾いながら成長を確認

トコトコくらぶの活動場所　森の入口★集合＆解散

概要

- 活動:週1回年間40回　4～5月1週 10-12時／5月2週～10月末 10-13時／11～3月 10-12時
- 対象:2021年4月2日～2022年4月1日に生まれた子ども12人×火・水・金曜日3クラス
- 場所:円山公園原生林・円山動物園　＊急な荒天時の避難先:子育て拠点てんてん・円山動物園
- 保育者:かざぐるまスタッフ（保育士等有資格者）4人体制（子3人に対して1人）
- 保育内容:

✓親子で森の入口集合→朝の会（わらべうた・挨拶・出席確認・絵本）→保護者退場→森の散策→（午後保育:手洗い→森でおにぎり・わらべうた・絵本→折返し）→帰りの会（報告・挨拶）→解散

✓季節や天候に合わせ円山原生林を散策～自分の足でしっかり歩く、走る、またぐ、くぐる、転がる、両手を付き身体を支えてよじ上る、下る、寝転ぶ、両足飛び、滑る、掘る、植物・泥・雨・雪と親しむ等

✓自分の身の回りのことを自分でやろうとし、少しずつできるようになる（基本的生活習慣の自立）～衣服の着脱・靴を脱ぐ履く・石鹸手洗い・食事準備・自食・片付け・鼻かみ・トイレ排泄

✓入会式、親子遠足、雪遊び、懇談、成長を祝う会等の親子交流会年8回（保護者も装備を整え参加）

目的

　価値観が多様化する中で子どもや子育てを取り巻く環境は大きく変化し、少子化の進行や地域の人間関係の希薄化などにより、子どもが子どもとして様々な人に見守られながら豊かな子ども時代を過ごして主体的に成長することが難しい状況となっている。

　そこで、家庭で育つ満2才児を対象に、子育て拠点てんてんおよび円山公園原生林を活用して週1回2-3時間、定期的に親と離れて保育者や友だちと一緒に過ごす機会を作り、集団生活や四季折々の自然とのふれあいを通して個々の子どもの心身の成長を促し、子どもの自立心や社会性を含めた“生きる力”を育てることを目的として「トコトコくらぶ」を開催する。

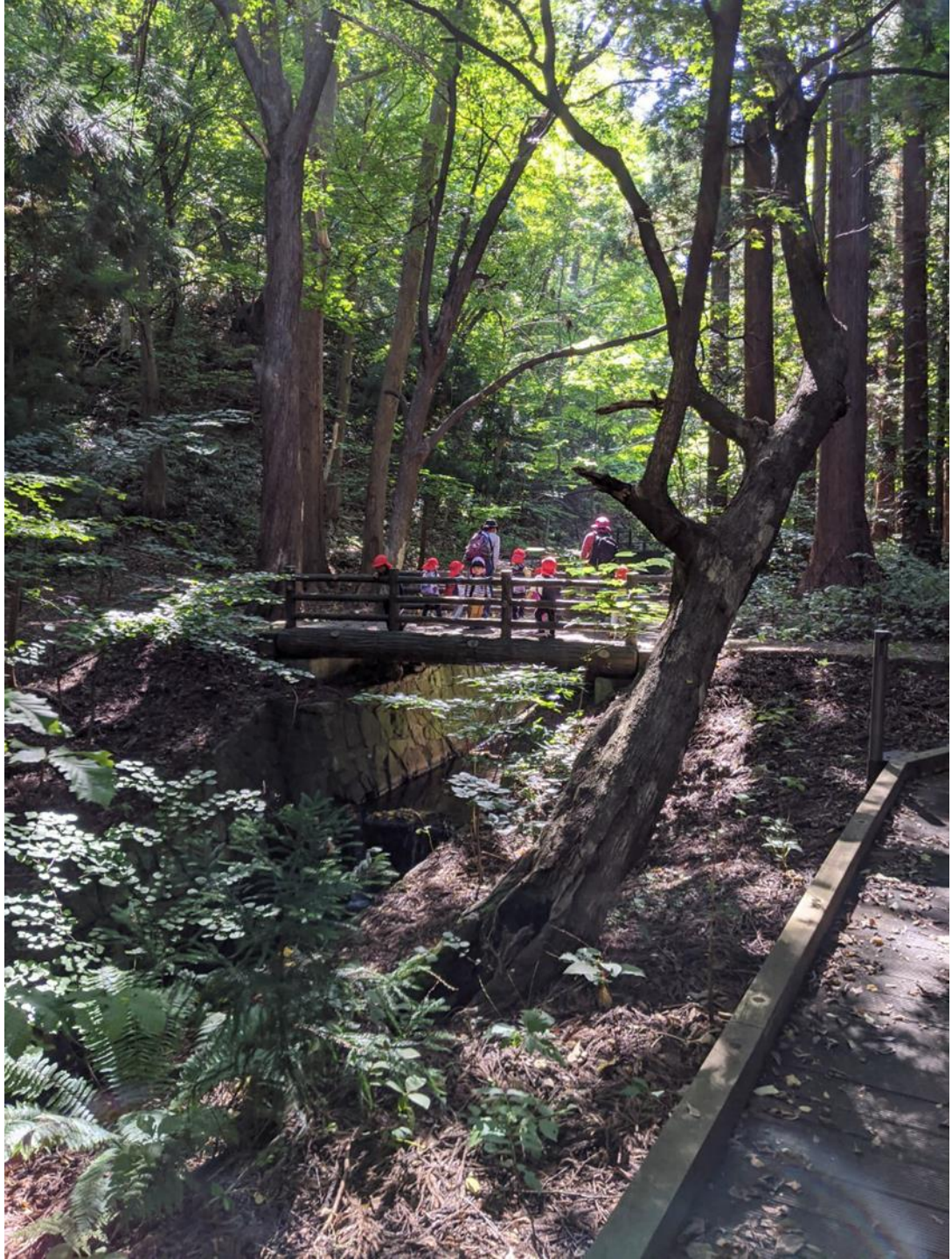
　保護者にとっても子どもと離れて自分の時間を持つことで子育てに余裕が生まれ、他の親子とのふれ合いを通して自分の子どもだけでなく、みんなの子どもをみんなで育てようという気運が高まる。

保育の目標

- 子どもが子どもとして豊かに育つ時間を大切にする
- あたたかな雰囲気の中で子どもの情緒の安定を図る
- 子ども一人ひとりの発達過程を考慮した保育を行う
- 四季折々の自然とのふれあいを通して五感を育む
- 友だちや保育者とのふれあいを通して、基本的信頼感や自己の主体性を育む
- 保護者とともに子どもの成長を見守る

子ども像

- 自然を愛する子ども
- じょうぶでしなやかな体の子ども
- 自分の気持ちを安心して表現できる子ども
- 自ら考え自発的に行動できる子ども
- 友だちと一緒に楽しく過ごせる子ども



2024年度開催予定日および親子交流会日程

月	火曜日クラス	水曜日クラス	金曜日クラス
4月	9日入会式・18日・23日	10日入会式・17日・24日	12日入会式・19日・26日
5月	7日・14日・21日・28日	8日・15日・22日・29日	10日・17日・24日・31日
6月	4日親子・11日・18日・25日	5日親子・12日・19日・26日	7日親子・14日・21日・28日
7月	2日・9日・16日親子　⑭	3日・10日・18日親子　⑭	5日・12日・19日親子　⑭
8月	20日・27日	21日・28日	23日・30日
9月	3日・10日・17日親子・24日	4日・11日・18日親子・25日	6日・13日・20日親子・27日
10月	1日・8日・15日・22日・29日親子	2日・9日・16日・23日・30日親子	4日・11日・18日・25日親子
11月	5日・12日・19日・26日	6日・13日・20日・27日	1日・8日・15日・22日・29日
12月	3日・10日・17日親子　⑱	4日・11日・18日親子　⑱	6日・13日・20日親子　⑱
1月	21日・28日	22日・29日	24日・31日
2月	4日親子・18日・25日	5日親子・12日・19日・26日	7日親子・14日・21日・28日
3月	4日・11日・18日成長を祝う会　⑧	5日・12日成長を祝う会　⑧	7日・14日成長を祝う会　⑧
合計	40回	40回	40回

1日の流れ

4～5月1週・11～3月10-12時／5月2週～10月末10-13時

時　間	活　動	主な内容
9:50～10:00	親子で森の入口集合	視診・連絡帳確認
10:00～10:10	朝の会	わらべうた・朝の挨拶・出欠確認・絵本の読み聞かせ
10:10～11:55	森の散策	森の散策・四季折々の自然とのふれあい
11:55～12:00	森の入口で帰りの会	保護者報告・わらべうた・帰りの挨拶
11:55～12:55	昼食	手洗い・昼食準備・昼食・片付け・遊びながら森の入口へ
12:55～13:00	森の入口で帰りの会	保護者報告・わらべうた・帰りの挨拶

各期のねらいおよび毎月のテーマ

期	各期のねらい	毎月のテーマ
1期 (4～6月)	新しい環境（保育者・友だち・場所）に慣れ、好きな遊びを見つけて遊ぼう	4月　これからよろしくね
		5月　お母さんはいないけど歩くの楽しい
		6月　上ったり下りたり
2期 (7～9月)	いろいろな素材（土・草花・木・木の実・葉・水など）の感触を楽しもう	7月　草花も虫も友だち
		8月　泥んこ遊び
		9月　動物園まで歩こう
3期 (10～12月)	秋から冬にかけての季節の移り変わりを感じて遊ぼう	10月　秋の色を感じよう
		11月　晩秋の森を楽しもう
		12月　初冬の森を楽しもう・もうすぐお正月
4期 (1～3月)	友だちと一緒に冬の自然や遊びを楽しもう	1月　雪と戯れる
		2月　雪は友だち
		3月　大きくなったね
全期	○ 自分でやりたいという気持ちと過程を大切にする ○ 生活や遊びの中で、保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しむ ○ じょうぶでしなやかな体を作り、基本的生活習慣を身につける	

四季折々の森での出会いと活動

季節	円山の森で出会うもの	子どもたちの活動
春 4~6月	松ぼっくり・胡桃の殻・おおうばゆり芽・山こぶし えぞえんごさく・えんれいそう・にりんそう ふきのとう・きばなのあまな・たんぽぽ・きのこ ディジー・山牛蒡・桂・おおはなうど・笹新芽 蟻・わらじ虫・かたつむり・なめくじ・虫の卵・鳩・烏 春蝉・蝉抜け殻・だんご虫・蚊・しまりす・えぞりす	しっかり歩く・拾う・転がす・座る・しゃがむ・くぐる 斜面上り下り（お尻に力）・思い切り走る・両足跳び 両手をついてよじ登る・倒木に跨る・枝を揺らす 花摘み・電車ごっこ・かくれんぼ・隠れて待つ・探す ヤッホーと叫ぶ・友だちの名前を呼ぶ・返事をする 葉っぱを川に流す・葉っぱの傘をさす
夏 7~8月	雨水・水溜り・泥・小川・やご・とんぼ・みみず・水 足長蜘蛛・青大将・しじゅうから・ごじゅうから おおばこ・つゆ草・水引草・くるみ・銀杏・桂の実 べびいちご・おおうばゆり花・蝮草・木の皮・枝 腐葉土のふがふが道・かなへび・蝉	へび苺摘み・棒で穴を掘る・泥んこ遊び・団子作り ぬかるみを歩く・水溜りを漕いで歩く・虫にさわる みみず探し・腐葉土ふんがふんが道を歩く 倒木電車・おおばこ糸取り＆相撲・倒木平均台 全力で走る・両足ジャンプ
秋 9~11月	動物園の動物たち・松ぼっくり・きのこ・枝 木のうろ・紅葉・落ち葉・円山八十八か所地蔵 落葉の絨毯・おおうばゆり種・プラタナス葉面 楓実・銀杏の葉・山ぶどう・どんぐり・霜柱・薄氷	動物園往復2～3㎞歩く・円山八十八か所巡り 落ち葉を捕まえる・集める・かけ合う・埋める・崖上り おおうばゆり種飛ばし・プロペラ飛ばし・葉っぱお面 きのこ採り・木登り・崖上り下り・薄氷霜柱集め
冬 12~3月	雪（堅雪・さらさら雪・ぼたん雪・ざらめ雪など） 霜柱・薄氷・氷のかけら・つらら 雪表層・雪の結晶・動物の足跡 雪解け水・木の周りの雪解け 銀杏・松の枝・ななかまどの実・冬芽	雪を握り固める・雪玉を投げる・寝転ぶ・転がる 雪玉を転がし大きくする・雪だるま作り・雪塊並べ 温泉や乗り物を作る・足型・人型・天使の羽・埋める 尻滑り・腹滑り・つながり滑り・ロケット滑り・坂上り 穴掘り・雪のケーキ・トンネル作り・雪合戦

大事にしていること

- 森に放牧～イヤイヤ期でなく「ブラブラ期」と捉える
- 赤ちゃん時代卒業！「してあげる」から「させてあげる」へ
- 子どもの「自分でやりたい」を育てる
- 保育者は遊び仲間、感動を共有する人、葛藤に寄り添う人
- 父性的なかかわり～新しい世界への水先案内人
- 先取り、先回り、余計なお世話はしない
- ひとり一人の発達過程や個性をふまえてかかわる
- 結果より気持ちとプロセスを大切に
- しっかりした体幹を育てる～両手で身体を支えてよじ登る、自分の身体を使いこなす
- 基本的生活習慣（食事・排泄・着脱衣・清潔等）の自立と並行して進める
- お手本を示し、やり方を具体的に伝え、やがて1人でできるようにできない所を手伝う
- 物の取り合いはお互いの子どもの育ち合いの機会～貸して・いいかい・まだ使ってるよ
- 主張すべき時は自己主張・相手の気持ちに気づく・葛藤する・抑制できる～バランス大事

料金

●申込み受付時

2024年度利用会員年会費2,000円＋トコトコくらぶ登録料2,000円＋夏用帽子代1,100円＋子育て応援ブック300円＝5,400円（釣銭のないようご用意ください）

●毎月の保育料

月額11,000円（諸経費・保険料等含む）を、前月末日までにゆうちょ銀行の口座にお振込みください。3月保育料で中止の返金を調整します。＊週2回参加21,000円

●振込先

ゆうちょ銀行　店名:九〇八（キューゼロハチ）　店番:908　口座番号:2962514

預金種目:普通預金　口座名義:特非）子育て応援かざぐるま

＊申込み後の受付辞退については、利用会員年会費・登録料は返還しません

●悪天候等の中止の対応

中止返金:1日当たり3,000円予定　132,000円＝3,000円×40回＋事務手数料12,000円

用意していただくもの

衣類・おむつ等、持ち物全てに大きくはっきり記名をお願いします

- アウトドア用合羽上下:雨天に耐えられるもの　＊3月・10月モンベル斡旋
- ゴム製長靴:夏用・冬用　＊ブーツは水が浸みる、爪先が曲がらない、自分で履けないので不適
- 夏用短靴:サイズが合い、マジックテープで調整可能、厚底で踵がしっかりしているもの
- アウトドア用リュックサック:おむつ＆着替え・タオル・弁当袋・水筒を入れる。胸のチェストベルト付き
- 水筒:ねじ式。軽量。子どもが自分で飲みやすいコップ式。常温推奨。量は200cc程度
- 手拭きタオル:リュックのサイドポケットに入れる
- 濡れおしぼり＆ケース:子どもが出し入れしやすいファスナー付きケースに入れる(百均)
- 巾着式弁当袋:おにぎり1個＆おしぼりケースが入る大きさ。紐2本で絞る
- 記名済みおむつ1枚をビニール袋に入れたもの(パンツ・ズボン・靴下各1枚)
- 服装:長袖・長ズボン(ウエスト総ゴム・伸縮素材)・曜日別カラー帽子・バンダナ　＊毎回同じ服で○！
- ハーブ系防虫スプレー:ハッカ等。5～10月毎朝出掛けにかけてくる
- 冬装備:スノーウエア・帽子・手袋・ネックウォーマー・スノーカバー・毛糸靴下・ハイネック・フリース

申込受付～今後の流れ

- **申込書**

必要事項を明記し、最近撮影した家族の顔が大きく映っている写真（L版）を申込書の裏面中央部にテープで貼る。表面下の押印を忘れずに！

- **初期費用**

利用会員年会費2千円＋トコトコくらぶ登録料2千円＋帽子代1100円＋応援ブック300円＝5400円を封筒に入れて申込書に添えて申込む。既に応援ブックを持っている方は5100円

- **受付**

1月15日（月）10～15時。ひろばで過ごしながら、来場順に事務室にて受付

その後は、てんてんひろばにて受付（金曜日はひろば休み）。曜日毎定員になるまで受付

- **今後の連絡**

メールでやり取り。クラスごとの連絡用メーリングリストを作成予定

- **親子面談**

3月下旬～4月上旬、1組20分予定

- **その他**

入会に向けてのお願い

- 週1回のトコトコくらぶだけの外遊びとならないように、家庭での外遊びと連動させてください。
- 自然の中で遊ぶので擦り傷、打撲、虫に刺される、ダニ付着等はあり得ることとご理解ください。
- 親が「してあげる」から、子ども自身に「させてあげる」ようにかかわり方を進化させましょう。
- 抱っこやベビーカーは卒業に向け、自分の足でしっかり歩く（年齢×kmは歩行可能だそうです）
- 今冬は親子共に温かく身支度して毎日散歩や雪遊びを！春以降もつき合ってあげてください。
- てんてんに週1回は来場して場や人に慣れ、自然な雰囲気の中で他児と一緒に過ごす経験を！
- 食事は両足を床に付けた状態で座り、手づかみやスプーンで自分で食べる方向に向けましょう。
- 子どもが身の回りのことを自分でできるようになるように、できない部分のみを手伝いましょう。

  例:座った状態で身体を屈曲させて靴下やズボンに片足ずつ入れて立って両手で持ち上げる。

  最初は大人の膝の上に座らせ二人羽織りのように行うと、手元が見えてわかりやすいです。

  おむつ交換後のパンツ型おむつを自分ではく、靴下・ズボン・シャツなどを自分で着脱する等
- 受付後、kazaguruma@oasis.ocn.ne.jpからのメールを携帯で受信できるように設定してください！

子育て応援ブック【5千冊】＆動画【107本】

子どものこころと発達の道筋、かかわり方の共有のため、各家庭でもご活用ください！

発行：
NPO法人子育て応援かざぐるま

監修：
川田　学（北海道大学子ども発達臨床研究センター准教授）
加藤静恵（小児科医／リハビリテーション学会認定臨床医）

内容：
第1章　子どもとのくらし
第2章　子どものからだへの見方・接し方
第3章　子どものこころへの見方・接し方

こどもともり ～ トコトコくらぶに寄せて

川田 学（北海道大学・子ども発達臨床研究センター准教授，かざぐるま理事）

●発達の節と出来事の節

人間の発達は，竹の節のように，育ち折々に節目をつくっていく過程だと考えられます。発達の節は，はやいおそいの差はあれ，だいたいその順序性において共通性があります。また，発達は部分的なものではなく，様々な側面が凸凹したり，まとまりをみせたりと，アンバランスとバランスを繰り返す，波のような過程です。いっぽうで，子どもの育ちのなかには，具体的でかけがえのない，出来事の数々があります。たった一度の出来事をくぐっただけで，子どもの姿が変わって見えること，また子ども自身から見える世界が変わってくることがあるように思います。ですから，一人の人間を生かしているのは，抽象的な発達の知識ではなく，具体的な出来事の経験であるということが，やはりだいじな視点になってくるのではないでしょうか。

●こどもともり

自然環境は，子どもに出来事をたくさんくれます。思いますに，それは繰り返しの中に発見があるからではないかと。森には四季があり，人間の統制外のサイクルで，子どもの五感に変化を伝えます。子どもはそれを掴み，また受け止めながら，外界と自分との関係についてのセンスを，その子なりに育てる。 幼い人たちにとって，いろんな環境をぶらぶらと歩いていく経験は，かけがえのないものです。それは彼女らの心の動きに合っているようです。とくに，現代社会の1-3歳頃の子どもにとって，「ぶらぶら」は得難い経験だと思います。彼らは，イヤイヤ期ではなく，ぶらぶら期なのです。 トコトコくらぶは，この年齢にふさわしい活動様式をふまえつつ，発達と出来事と季節の節のなかで，子どもたちの育ちあいを支える取り組みだと思います。 そして，子どもたちの育ちあいと重なって，大人たちの育ちあいも生まれているようです。

2歳児の森のようちえんトコトコくらぶに寄せて

加藤靜恵（小児科医）　札樽病院／医療福祉センター札幌あゆみの園

私は発達外来を担当して18年目になります。発達性協調運動障害の子どもに対してのリハビリテーション処方として、感覚統合療法主体の作業療法を介して関わっております。対象は、小児精神科で自閉スペクトラム症（旧:自閉症・広汎性発達障害・アスペルガー症候群など）、精神遅滞、注意欠如多動症（旧:注意欠陥多動性障害）などの診断を受けた子ども達で、姿勢保持・バランス・運動の苦手さ、不器用さなどの問題を抱える幼児や小・中学生です。

私は、その子ども達には共通して「原始反射の残存」と「眼球運動の問題」が認められている点に注目しております。「原始反射は生後から出現し乳児期に消失する」と医学や保育の教科書に書かれていますが、残存のアセスメントは作業療法分野等で行われております。寝返り移動や動物這い・四つ這いを十分に経験することで原始反射は抑制され、姿勢を保持するための体幹筋力が付き、転んでも手が出て（保護伸展反応）顔や頭を守る力がつきます。特にモロー反射（上肢と下肢の連合反応）が残存する子どもは、全ての感覚に過敏に反応し、注意集中や視知覚・眼球運動・前庭感覚・バランス感覚・協調運動・学習や身体機能（パフォーマンス）の問題を抱えています。

子どもたちを取り巻く生活環境の変化も大きく関わっております。以前はどの家にもあった畳部屋は、今では減少しています。畳部屋だと頭を多少打ってもゴロゴロ寝返り移動が安全にできますが、硬い床に絨毯を敷きつめた部屋ではそれが難しい状況です。また、畳の縁の上を歩くことによって、バランス感覚が養われるが、絨毯の上ではその機会は減少します。排尿便毎にしゃがんでいた和式トイレは、風前の灯火です。公園にあった箱ブランコ・シーソー・グローブジャングル（回転する球体のジャングルジム）も、デパートの屋上などにあった子ども遊園地の、メリーゴーランド・コーヒーカップ・揺れ遊具などが姿を消しています。こうして子ども達の遊ぶ場が消えていくことは、視知覚を含む発達全般に、大きな影を落としております。札幌は市内の道路はほぼ舗装され、幼児でもベビーカーに乗り、幼稚園や保育園の送迎は園バスや保護者の車のことが多く、小学校入学まで、“歩く”機会は限られています。

森の小径はしっかり腿を上げ、不安定な足元を見ながら、足首・膝・股関節でバランスをとり、転びそうになりながらも、しゃがんだり・くぐったりして、上肢下肢/左右の分離・協調運動を学ぶ絶好の機会です。原生林の空気を深呼吸しながら歌を歌いながら歩くことで呼吸筋も強化され明瞭な発声や鼻呼吸の獲得に繋がります。地方も少子化の影響でスクールバスでの送迎が増えているためか、北海道の子どもたちの体力は全国平均を大きく下回っています。虫の嫌いな保護者も多く、森での活動が身体作りに大きく貢献することは間違いございません。